

# 大津企業景況調査報告書

(第81回)

平成30年4月～6月期 実績

平成30年7月～9月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成30年4月～6月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 164 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	9 社	5 6 . 3 %
卸 売 業	1 5 社	1 2 社	8 0 . 0 %
小 売 業	4 2 社	2 9 社	6 9 . 0 %
サービス業	6 2 社	3 8 社	6 1 . 3 %
建 設 業	2 9 社	1 9 社	6 5 . 5 %
合 計	1 6 4 社	1 0 7 社	6 5 . 2 %

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成 30 年 4 月～6 月とし、調査時点は平成 30 年 6 月 1 日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は小幅に悪化

平成 30 年 4 月～6 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が前四半期に+10 と 4 年ぶりにプラスに回復したが、今四半期は▲1 と小幅に悪化した。原材料費や人件費、運賃等の上昇を販売価格に転嫁できないこと等によるとみられる。業種別では、建設業が公共工事の増加等からプラスを維持し、製造業は改善したが、卸売業、小売業、サービス業は悪化した。人員不足感は続いているが、製造業、建設業、卸売業の深刻な状況は緩和した。

先行きの業況判断 DI は、▲6 と悪化が続くとみている。原材料費・人件費等の上昇に加えて米国の保護主義が各国と引き起こしている貿易摩擦の影響、大規模金融緩和の見直し時期等の懸念材料があり企業は先行きを慎重にみている。業種別では、製造業が改善を見込んでいるが建設業やサービス業では悪化を見込んでいる。全業種で人手不足が続くとみている。

#### □ 業況判断 DI（前年同期比）は、小幅に悪化。建設業がプラス維持し、製造業は改善

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は小幅に悪化した。原材料費や人件費、運賃等の上昇を販売価格に転嫁できないこと等によるとみられる。業種別では、建設業が堅調で製造業は改善したが、卸売業、小売業、サービス業は悪化した。

#### □ 売上 DI（前年同期比）は、前年比小幅減少。製造業、卸・小売業減少、サービス業は増加

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、▲2 と前年比小幅減少となった。製造業で前年比大幅に減少し卸売業、小売業でも減少したが、サービス業はインバウンド消費の好調等から増加が続いた。

#### □ 採算 DI（前年同期比）は、プラスに好転。建設業、製造業、サービス業が改善

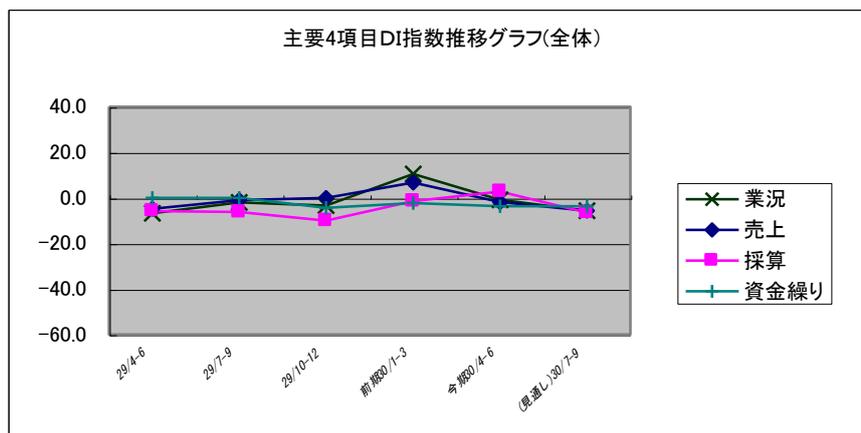
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期+3 とプラスに好転した。業種別では建設業、製造業、サービス業が改善したが、小売業はマイナスが続いており、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できていないことによるとみられる。

#### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、やや悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期▲4 と悪化した。長期資金、短期資金の借入易さも前四半期から悪化した。

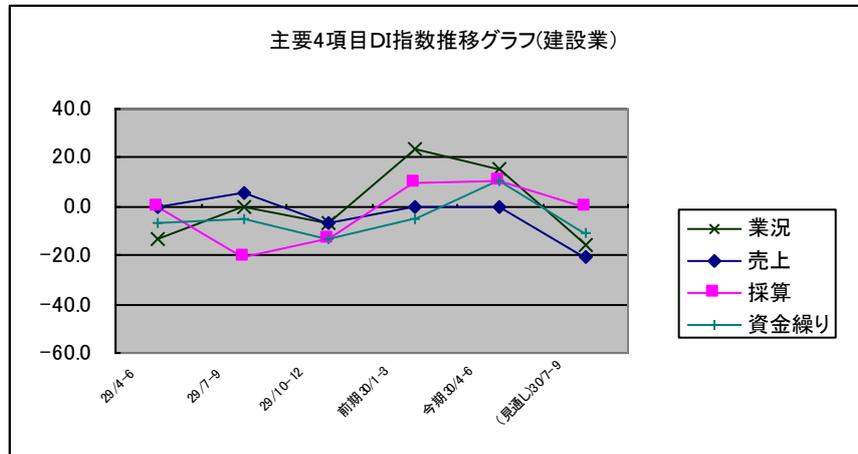
#### □ 従業員 DI（前年同期比）は、人員不足感が続く。製造業、建設業の深刻さは緩和

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、今期+22 と人員不足感が続くも前四半期よりもやや緩和した。業種別にみると、製造業、建設業、卸売業の+30 を超える深刻さは緩和したが、人員不足は続いている。どの業種でも省力設備の導入による生産性向上や労働時間短縮による働き方改革、待遇改善等が課題になってくる。



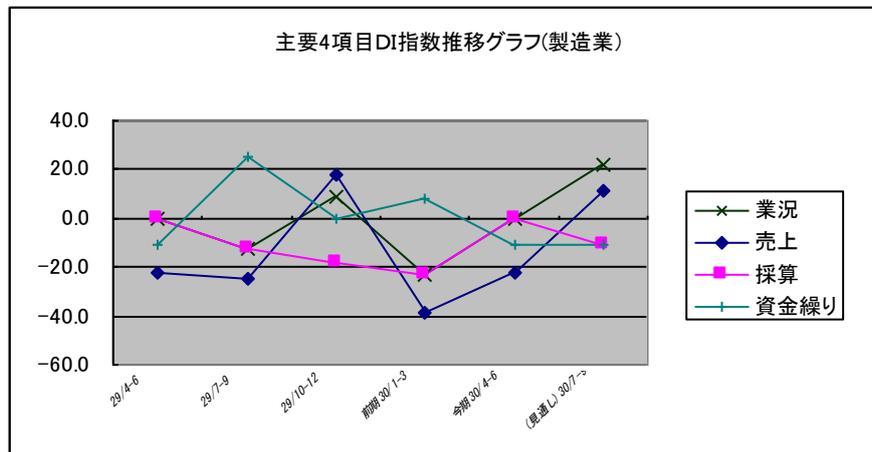
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+24 から今四半期は+16 と公共工事の増加等から好調が続いている。個別指標をみると「売上」は前四半期の±0 から横ばいであったが、「採算」が+10 から+11 へ好転が続き「採算水準」も高水準が続いているためとみられる。「従業員」は強い人手不足感がやや緩和した。



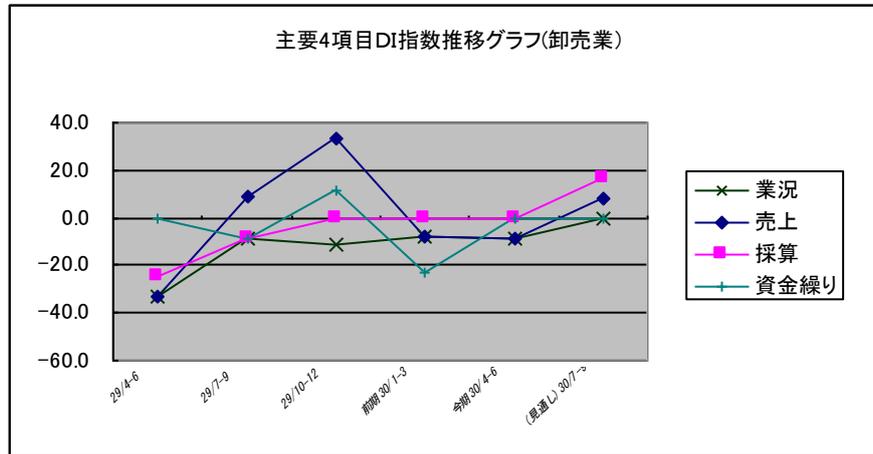
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲23 から今四半期は±0 に改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲39 から今四半期▲22 と減少幅が縮小し、「採算」が前四半期の▲23 から今四半期±0 に改善したことによるとみられる。「従業員」は前四半期の+46 の深刻な不足状況から今四半期は+22 と緩和した。



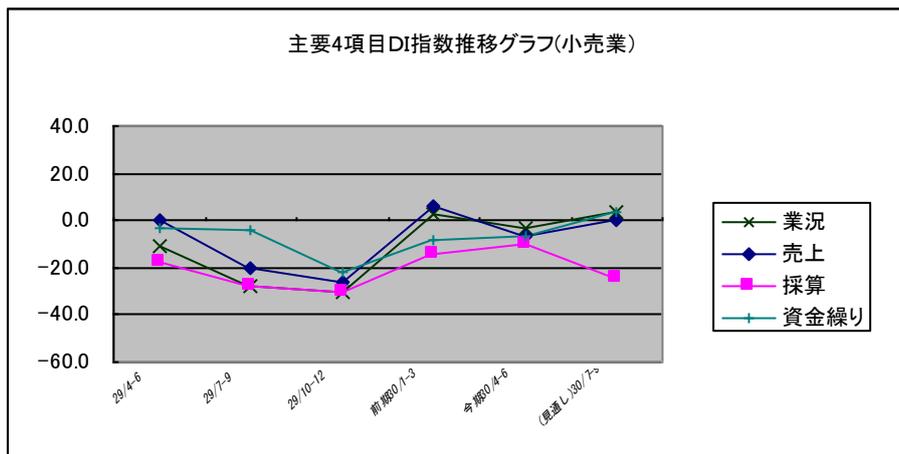
## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲8 から今四半期も横ばいである。個別指標をみると「売上」が前四半期も今四半期も▲8 と減少が続き、「採算」は前年並みである。「従業員」は前四半期の+31 の強い人員不足感から今四半期は+25 とやや緩和した。「資金繰り」は改善した。



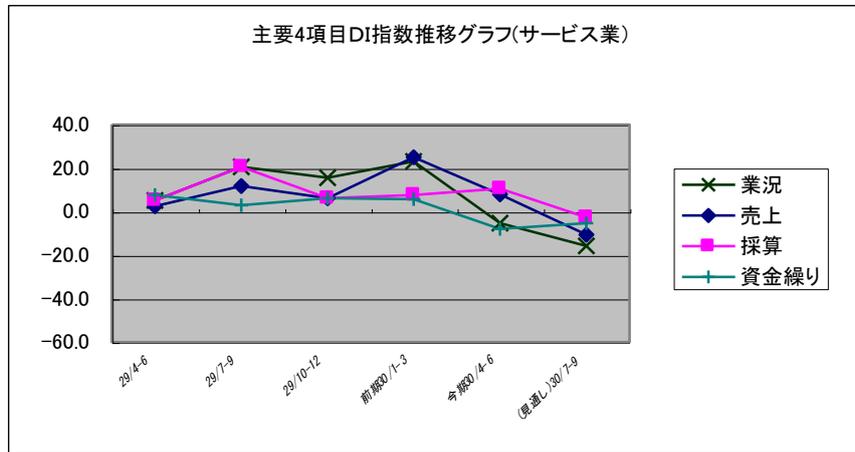
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+3 から今四半期は▲3 と小幅悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の+6 から今四半期は▲7 と小幅減少した。「採算」は▲14 から▲10 へ改善した。「従業員」は人員不足感が続いている。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+23 から今四半期は▲5 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期+25 から今四半期+8 と増加幅が縮小し、「採算」は+8 から+11 に良化している。「従業員」は人員不足が続いている。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲1から▲6へと悪化が続くとみている。個別指標をみると、「売上」は▲2から▲6へ減少し、「採算」が+3から▲7へ悪化すると見込んでいる。「従業員」は+22の横ばいで人員不足は続く見込みである。

業種別「業況」DIでは、好調であった建設業がマイナスに転じ、サービス業はマイナス幅が拡大する見込み。一方、製造業と小売業はプラスに転じる見込みである。

景気は緩やかな拡大基調にあるといわれてきたが、ここへきて原材料費、人件費、運賃等の上昇に加えて米国の保護主義が各国を引き起こしている貿易摩擦の影響、大規模金融緩和の見直し時期等の懸念材料があり、地域においては高齢化の進展もあり、企業は先行きを慎重にみている。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は24%で、3ヵ月前より▲2ポイント減少した。業種別にみると、卸売業が最も高く50%、製造業が33%、サービス業が26%、建設業が21%そして小売業が10%である。投資する企業の投資内容の割合は、「更新投資」が46%で最も多く、「合理化省力化」が19%である。うち卸売業、サービス業では30%～33%が合理化省力化投資で人手不足を補完する方針とみられる。「生産力増強」は12%である。投資方針は、「計画通り」が54%で、「景気により見直す」が31%となっている。投資内容からして投資方針は妥当な判断といえる。

「生産力増強」投資が12%と少ないことから企業も先行きに慎重な姿勢が見て取れる。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

## (今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 運送料が倍近く上昇しました。通販部門には大きな痛手です。(製造業)
- ・ 地域の高齢化が急速に進み、65歳以上が3割越となった。今後、この課題に特化した経営ツールが必要となると思われる。(製造業)
- ・ 漁獲量が不安定な為に仕入れが厳しい。(小売業)
- ・ 天候に影響されたのと政治への不信、将来への不安などの心理も影響あるかなと思うが、自分ではどうすることもできない事。売上をのばせなくても、利益を出せる様にと思いません。(小売業)
- ・ 人材が確保できない。(小売業)
- ・ 物売りの多様化、多品種、少量売りに対して経費の増加、在庫商品の多様、販売ロットの減少、よい方向とは、物売りよりメンテナンス、お客との対話による個々への需要へのお手伝い、まかないの作業等、サービス業務の増加、物売りよりメンテナンスサービス中心に！！(小売業)
- ・ 消費税増税後の物価上昇(?)で、世の中の動きが大きく変化する気がしていますが、どのように対応すべきか思慮している。(サービス業)
- ・ 政治が停滞していると経済にまで沈下する。このことは野党だけでなく与党も検討して欲しい。(サービス業)
- ・ 1. プラットフォーマーの出現による業務の独占化が進み、業界内省化が外注を阻む。2. 電子行政構築が業界主導となっており、業界の為の規制緩和が既存システムを破壊し、その分野の業務・業者が淘汰されている。(サービス業)
- ・ 高収益の企業は投資を積み増している。一方で国際政治の混乱に伴う円高は経営者の気持ちを曇らせる。海外需要がけん引してきた回復を国内の推進力に変えるには、企業が生産性を高め、賃金を増やす流れを強める事だろう。(サービス業)
- ・ ガソリン価格の上昇で車両交通費が増加。天気に左右される、屋根工事業ですので、梅雨の天気が気になる。(建設業)

以 上

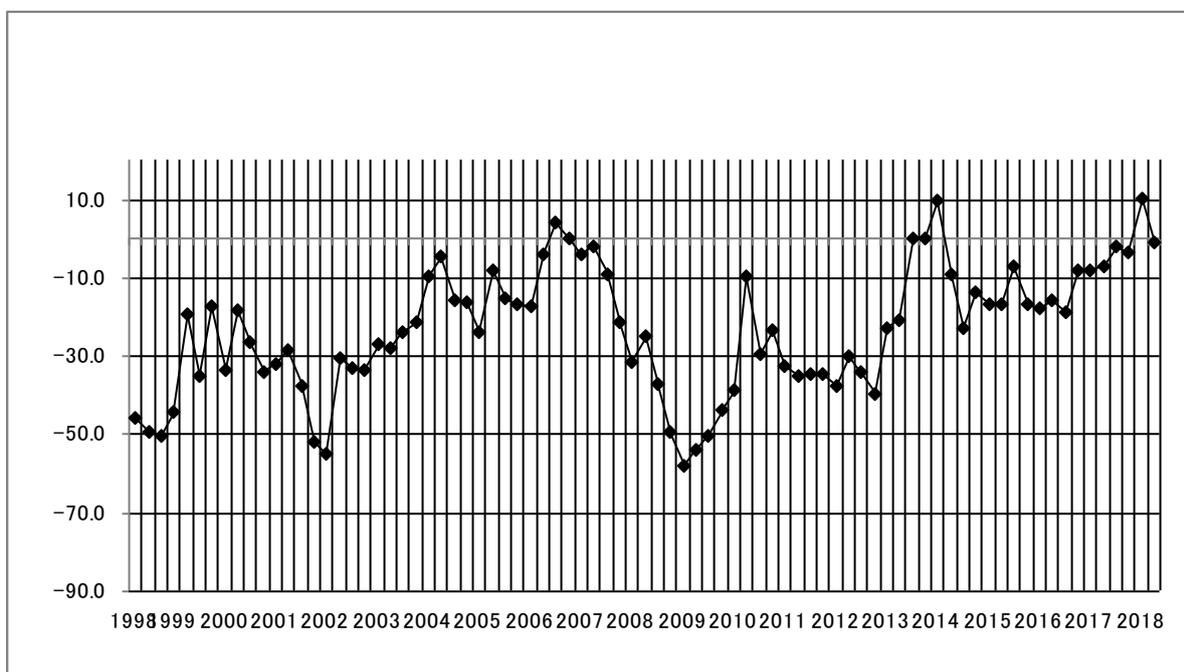
## DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲0.9	▲5.6	▲1.9	▲5.6	2.8	▲6.5
建 設 業	15.8	▲15.8	0.0	▲21.1	10.5	0.0
製 造 業	0.0	22.2	▲22.2	11.1	0.0	▲11.1
卸 売 業	▲8.3	0.0	▲8.3	8.3	0.0	16.7
小 売 業	▲3.4	3.4	▲6.9	0.0	▲10.3	▲24.1
サービス業	▲5.3	▲15.8	7.9	▲10.5	10.5	▲2.6
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	7.5	15.0	▲9.3	▲8.4	21.5	22.4
建 設 業	15.8	10.5	▲5.3	▲15.8	15.8	15.8
製 造 業	22.2	22.2	▲11.1	0.0	22.2	33.3
卸 売 業	25.0	41.7	▲8.3	16.7	25.0	25.0
小 売 業	▲3.4	3.4	▲10.3	▲13.8	20.7	20.7
サービス業	2.6	15.8	▲10.5	▲10.5	23.7	23.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲3.7	▲3.7	▲4.7	▲1.9	▲1.9	▲0.9
建設業	10.5	▲10.5	▲10.5	▲5.3	5.3	5.3
製造業	▲11.1	▲11.1	11.1	22.2	11.1	22.2
卸売業	0.0	0.0	▲8.3	0.0	▲8.3	0.0
小売業	▲6.9	3.4	▲10.3	▲6.9	▲6.9	▲3.4
サービス業	▲7.9	▲5.3	0.0	▲2.6	▲2.6	▲7.9
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>